



Title	<書評> 縄田鉄男著『パシュトー語文法入門』大学書林, 1985年
Author(s)	勝藤, 猛
Citation	大阪外国語大学学報. 1988, 76(1-2), p. 121-128
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/81202
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

書評：縄田鉄男著『パシュトー語文法入門』大学書林，1985年

勝 藤 猛

言語学者縄田氏によるパシュトー語入門書の著述は、日本の学界に対する大きな貢献である。複雑きわまりないこの言語の文法を一冊の本にまとめた著者の英知と努力に敬意を表する。同氏と筆者とは、1960年ごろ、アフガニスタン国のカーブル大学でともにパシュトー語を学んだ仲である。文献と現地調査の両面からの同氏の精力的な研究は、多数の優れた著作となっており、本書もそのひとつである。ここに本書の紹介を試みるに当たり、正確と公平を期して、下書を著者に見て頂いて、一部修正し、かつ著者のコメントを付け加えた。

まず本書で触れられていないパシュトー語の特徴を2点、指摘する。

▲ 方言が多く、有力な標準語がない。ペルシア語ではテヘラン方言が標準語となっている。テヘランの印刷物が圧倒的に多いからである。序論 vi に南西（カンダハール）、南東（クウェッタ）、北東（カーブル、ジャララバード、ベシャワル）の3方言が挙げられている。筆者は南東方言は知らないので言及できない。本書は南西方言によることが明示されている。なおカーブル大学での筆者の教師はすべて北東方言の人であった。そのうちのひとりの言によれば、筆者らに教えているのは“school dialect”であるとのことであった。方言の違いのいくつかの例を示す。転写法は縄田著書による。

- A 縄田著書＝南西方言
- B アフガニスタン国小学校パシュトー語教科書，1336（1957/8）年
- C 参考書目(10) カージー・ラヒームッラー・ハーン『現代パシュトー語教本』（英文）第1巻のみ＝北東方言（カージーは裁判官＝知識人の称号）
- D 同 (17) サディークッラー・リシティーン（当時，カーブル大学文学部パシュトー学科主任教授）『パシュトー語文法』（ペルシア文）第1冊のみ，これが「スクール・ダイアレクト」であろう。
- E 同 (5) 『パシュトー語＝ペルシア語辞典』Ⅰ—1951，Ⅱ—54。

同 (6)『ペルシア語＝ペルシア語＝パシュトー語辞典』Ⅰ，Ⅱ—1957，Ⅲ—58。

F 『ポケット・パシュトー語＝ロシア語辞典』モスクワ，1986年

『学習ロシア語＝パシュトー語辞典』モスクワ，1987年

	太陽	日，昼	少女	私の	我々は	存在する	可能（1単）
A	lmar	wradz	njələi	zmâ	muž	sta	səm*
B	lmar	rwadz	...	zmâ	munž	šta	šəm
C	nwar	vraz	jinai	zamâ	mûng	shta	sham
D	lmar	wradz	...	zmâ	munž	šta	šəm
E	lmar	rwadz	jiləi	zmâ	muž	šta	...
	nmar	wradz	njələi		munž		
	nwar		jinai				
	[âftâb]	[rûz]	[doxtar]	[az man]	[mâ]	[hast]	
F	lmar	wradz	njələi	zmâ	munž, muž	šta	šəm
	[солнце]	[день]	[девочка]	[мой]	[мы]	[есть]	

Aの*, sとşが交替することが⁵，本書末尾「補説」317頁に述べられている。Cは同書のローマ字転写のまま（以下同）。Eは[]内のペルシア語から引いた。

Gul Pacha Ulfat, *A Few Notes on the Orthography and Composition of Pashto Language*, Kabul, 1959, 1961. (in Pashto) 著者は当時，パシュトー・アカデミー総裁。

1942, 48, 58年に行われた正書法決定会議の結果（左列の方言を右のように整理）

lmar, nmar, nwar, mar, mēr.	→	lmar, nmar
wradz, rwadz.		wradz.
jinəi, njələi, jləi, jiləi.		jinəi, njələi.
zmâ, dzmâ.		zmâ.
muž, munž.		2語とも
šta, sta.		šta.
šəmi, səm.		šəm.

方言の差は，会話においてはさほどでないが，書記すると，綴りが異なり，アルファベット順に並べると，ばらばらになる。パシュトー語の辞書・文法書作成の困難さのひとつはここにある。

▲ パシュトー語には，ペルシア語，およびペルシア語を経たアラビア語の語彙が多い。

発音の問題：

§270, 第4種女性名詞のうち-iで終わるもの，例えば dōsti（友情）など，また§313, 第5種形容詞のうち-iで終わる語，すべてアラビア・ペルシア語で，これらのiは長母音である。また§33の「usul 要綱」（アラビア語 asl の複数）のふたつのuの，前者は短母音，後者は長母音である。それをパシュトー語で区別しなくてよい。

語彙の問題：

§34, 「kab 双魚宮」アフガニスタンの暦はイランのそれと同じで、春分を元日とする太陽暦である。月の名は、黄道十二宮のアラビア語で、その最後が「魚座」Hut である。1 年の月の名は第51課にあり、パシュト語名がカッコつきでアラビア語名の後に示されている。ただしパシュト語名は無理に訳したのであって、公文書に使われることはあっても、一般の人は知らない。

ペルシア（アラビア）語彙に対してパシュト語彙が作られた場合、どちらが実際により多く使われるかが、問題である。いくつかの例を示す。/の前がパシュト語、後はいずれもアラビア語。

学校とくに小学校 *šôwandzay* (§203, F) = *šôdæl* (§334), *šôwæl* (E) 示す, おしえる + *dzay* < *dzây* 場所 (§42) / *maktab* (B, F) これら4語はすべてアラビア語の方が普通に用いられる。

農業 *karhəŋa* (§261, F) < *karæl* 種をまく (§326) / *zirâ'at* (F)

新聞 *wradz-pâna* (E, F) = *wradz* 日(前出) + *pâna* ページ (§135) / *axbâr* (§211, F, sg.xabar, C.p.206)

飛行機 *alwataka* (§264, F) < *alwatæl* 飛ぶ (§334) / *tayâra* (§259)

序論 vii パシュト語の一般的特徴—ペルシア語と比較して

	ペルシア	パシュト
() 内は Lambton, <i>Persian Grammar</i> の頁数		
1 語順	主語—目的語—動詞 (p. 5)	同
2 前置詞	あり (Lesson XI)	前置詞・後置詞・前後置詞の3種
3 名詞		
性	区別なし (p. 4, note3)	あり
数	複数語尾あり (p. 8)	あり
格	変化なし (p. 4)	あり
4 形容詞	名詞の後 (p.19)	前
	変化なし	名詞に応じて変化
5 音韻	反転音(そり舌音)なし	あり
	語頭子音結合なし	あり, 例: §89 <i>stâ plâr</i> (君の父)
	(アラビア・トルコ語も)	

パシュト語の動詞は、主語の人称・数によって活用する。ただし他動詞の過去・現在完了・過去完了は、目的語の人称・数・性によって変化する。

「過去時制では、言語類型論でいう能格性を備えている」

斜格 I は、過去時制(および複合時制)において、他動詞の行為者を表す。論理上の目的語は絶対格におかれる (§189, 222)。

§134は dərłōdəl 「持っている」の過去が、目的語により変ることを示している。

動詞 kawəl 「行う、為す」の、過去Ⅰが§184に、過去Ⅱが§185に、出ている。

目的語が3人称の場合、男・女・単・複の4種となる。

「本（男）、ノート（女）を持った」			Ⅰ「おこなった」Ⅱ	
男・単	kitāb	dərłōd	kāwə	wəkr̥
男・複	kitāb-una	dərłōd-əl	kawəl	wəkr̥-əl
女・単	kitāb-c-a	dərłōd-a	kawəl-a	wəkr̥-a
女・複	kitāb-c-ê	dərłōd-ê	kawəl-ê	wəkr̥-ê

能格性 ergativity は古代・中世ペルシア語に見出され、それがパシュトー語に現存していることで、言語学上意味があるようである。このことを入門書でどの程度説明すればいいか。

§100 人称代名詞の主格。§134, 189—その斜格。

§101 “Be” 動詞の現在。§114, 381—その過去。§361, 378—3人称単・複 wi。

北東方言の2人称複数—現在：yey, 過去：wey。

§128, 188, 415 接尾辞的代名詞。§418その用法：所有格「君の本」、主格「私は手紙を書いた」、目的格「私は彼をなぐる」、与格「私 [にとって] は寒い」

§132 「持っている」の現在幹 lar-, 過去幹 dərłōd-

不定詞—A：dərłōdəl, C：laral, D：両方, E：larəl [dāstan], F：larəl [иметь]

§111, 170, 192, 199。「どこに、どこへ」ciri. cirta もある。

B：cirta C：charta E：ciri [kojā] F：ciri, cirta [r̥de]

第10—12課 動詞の語尾変化は、主として主語の人称・数による。

自動詞・他動詞の現在形ⅠⅡ：			⋮	自・他動詞の過去2形：	
	単数	複数		1, 2人称は現在形に同じ。	
1人称	-əm	-u		3人称は、単・複・男・女により異なる。	
2	-ê	-əy		他動詞の過去は目的語により、語尾は上	
3	-i	-i		述のとおり。	

第11課：動詞の接頭辞 x 人称に向かって 1人称：rā- 2：dər- 3：wər-

§178 人に呼ばれて、「ただ今まいります」は、「私は来た」Daraylēm ということ、ペルシア語で Āmadam というのに同じ。

§220—223 名詞には格による変化があり、まず絶対格とは、§221にあるとおりいわば普通の形である。もうひとつ斜格があり、ⅠとⅡに分けられる。このうちⅠが重要で、他動詞の過去の主語 (§189)、および前・後置詞の目的語 (§433) の場合である。

第16—20課：男性名詞 5 種（男・女の区別はまず自然性に従う）

- 1 子音または -ə で終わる無生物，複数語尾は -una，単数の絶対格と斜格 I が同形。
- 2 子音で終わる生物， _____ -ân， _____
- 3 アクセントのある -áy で終わる語，絶対格複数と斜格 I 単数が同形で，語尾は -i となる。
- 4 アクセントのない -əy で終わる語，同形の組は 3 に同じ。語尾は -i となる。
- 5 不規則

第21—25課：女性名詞 6 種

- 1 アクセントのある -á で終わる語，同形の組は上の 3 に同じ，複数語尾は -ê。
- 2 _____ ない _____
- 3 -ā または -ô で終わる無生物，単の絶と斜が同形。
- 4 -əi で終わる無生物，単の絶・斜と複の絶が同形。
-i で終わる抽象名詞，単斜と複絶で -əi になる。
- 5 -ā などの母音で終わり，女性を表わす語，単の絶と斜が同形。
- 6 子音で終わる語で，女性生物 §217 と，無生物の一部 §219。

第27—31課：形容詞 5 種（絶対格・単数の男性と女性の語尾の相違による）

	男性	女性		(アクセントの位置に注意)
1	spək	spək·a	「軽い」	女性でアクセントのない -a が付く。
2	um	um·á	「生まの」	_____ ある _____
3	kucnáy	kucnái	「小さい」	-áy→-ái
4	nəwəy	nəwê	「新しい」	-əy→-ê
5	母音で終わるものは，性・数・格による変化なし。			

第32課：動詞の分類は，不定形と活用形の関係によってなされている。一々覚えるしかない。
kawəl する (§322)，kədəl 成る (§338) は，ペルシア語の kardan, šodan に当る。

第34—37課：動詞の現在時制の I は Indicative，II は Subjunctive である。過去時制の I は Imperfect，つまり過去の進行や習慣を示す。II は普通の過去。

§361 現在時制 II の用法(ii)「お茶を入れましょうか」の「入れる」は acawəl 投げる (§33, 278, 326) で，すでにできているお茶を注ぐこと。お茶を「つくる」のは damawəl [dam kardan]。「ダム」とは，ポットに茶の葉と熱湯を入れ，それをしばらく火の上に置くこと。

例文：「[よい子は朝早く起き] お茶ができるまで，勉強する」

(B, 2 年, p.18) Tər hayō ci cāy damēzi, xpəl lwast wāyi. (damēdəl ダムされる)

§382(iii) Ze bə yē lidələy wəm. 「ひょっとして彼に私は会ったかもしれなかった」「彼に私は会った」
は厳密には，「彼は私を見た」他の例：

- | | | |
|------|-----------------------|--------------|
| §222 | Sari sədza wəlidəla. | 男は女に会った。 |
| §365 | De xpəl məx mindzələ. | 彼は顔を洗っていました。 |

§369(ii) Zə bə yê wəlidələm.

彼は私に会いに来たものだ。

主語（行為者）は斜格 I，目的語（イタリック）は絶対格になる。yê は主語としての接尾代名詞 3 人称（上記§418）

§434 wə... tə 「必ず後置詞 tə を伴う」とある。wə はなくてもよい。後置詞 tə : bāzār tə 「バーザールへ」（§170）

wə のつく例：Amān də ās wə arx tə dəy. 「アマーン（男の名）は馬の傍にいる」（B，1 年，p.21）

第47課，動詞状形容詞 -unkəy は，ペルシア語の -ande と同じで，行為者名詞または形容詞として用いられる。

小辞（particle）“bə” のまとめ（§177に初出）：

§361(vi) 現在 II に付いて，未来を言う。不確定のニュアンスがある。I にも付き，意志を表す。

§366(iii) 「（もし）…，[私は] 映画に行くのですが」 zə bə sinimā tə tləm. 現在の事実に反する条件文の帰結節において過去 I に付く（転写で bə が落ちている）。

§369(ii) 「[私は] 時々立ち止まりました」 Zə bə wə-darêdələm (wə-darêdəm).

過去 II つまり継続でない普通の過去に付いて，反復・習慣を示す。

bə なしの I，Zə darêdələm (§364) はどうか。継続，「立ち止まろうとしていた」？

同(iii) 「（もし）…，私達はどうしよう」 muṣ tsə bə wəku.

「行う」 kawəl の現在 II (§182) に付いて，不安のある未来を表す。

§378 「彼は行ったかもしれない」 Day bə tləlay wi.

現在完了 II に付いて，不確かさ・可能性を意味する。

§382 (iii)(iv)(v) 本書の説明の通り。

§390 第一の例文は，上の§366に同じ。第二は§382(v)とともに，過去の事実反する条件文の帰結節において。

小辞 “wə” のまとめ（§209に初出）：

§349 命令法 II に付く。I が継続を表すのに対して，一回きりの動作を指す。

§358(i) 現在の I（直説法）を II（仮定法）に変える。

§368(i) 過去 II に付く。命令法に同じ。ともに「完了」の意味を与える。

—疑問点—

序論 v,vi 頁 西北辺境省→州

§9（6 頁下）z は中国語 zh : zhe 這，zhi 紙。ren 人，ran 然，r の音。

§111 下から 3 つめの例文，mêz の z の字に点が要る。

〃 一番下の例文，mêz 椅子→テーブル

§114 繫辞（Be 動詞）の過去は，§381と同じはずであるが，違っている。前者で 1 人称複数の綴り・転写，3 人称男性複数の綴り（転写はよい）は，後者の方が正しくはないか。

[著者：文献・文書により色々ある。ただし後者に統一すべきであろう]

第39課 現在完了＝完了分詞＋Be 動詞現在

40 過去———過去

これはペルシア語に同じ。ただし完了分詞は性と数により、第4種形容詞と同じ変化をする (§371)

§119 46頁上、「長い」の m.pl. uždə の語尾 -ə を表す字 hē が要る。

§206 Ōs-əm. 私は住む。綴りの末尾の字は wāw でなく, mim.

§217 šādāza 王子→šāzāda

§221(iv) 語順によってニュアンスの違いがありはしないか。※が例文。

Də maktab tsəxa γarma rādzəm.※

「私は学校から、昼（正午ごろ）に帰ります」

Γ arma də maktab tsəxa rādzəm.

「私は昼、学校から帰ります」※

§222(i) 他動詞の過去時制において、行為者は斜格 I, 目的語は絶対格におかれる (§231を参照)
→§189, 221(ii), 365, 369(ii)の第2文。

§230 māzdigar (māzigar) 晩<ペルシア語 namāz-i digar = 'aṣr. 正午と日没の中間の礼拝およびその
ころ、3—4時ごろ。日没後しばらくの間が māšām (補説, 316頁)

用例: 「太陽は朝のぼり、マージーガルに沈む」(B, 2年, p.52)

Lmar saḥār rāxêzi, aw māzdigar prēwəzi. (§357, rāxatəl 昇る, §334, prēwatəl 落ちる)

māzdigar, māšām については、縄田『パシュト語基礎1500語』(大学書林) 参照。

§369(iii) 「もし彼が wlār 来たら」→行った「行く」の過去 II 3 単男 (§162)

この構文で過去形を使うこと、日本語・ペルシア語に同じ。Lambton, *op.cit.*, p.65.

§376 現在完了の最初の例文 Day rāyələy day. 「彼は来ました」とあるが、「来る」の現在完了は「来
ている」(来てからしばらく時間がたっている)

「来た」直後なら、過去 II, rāyəy (§174) 日本語「来た」、中国語「来了」

この違いはペルシア語も同じ。Âmade ast. / Âmad.

[著者: 現在完了が経験・完了を表すのはよく知られているが、いずれを指すかは、動詞自体の意
味やコンテキストによるようである]

§89, 125, 169では, zmā 「私の」などを「所有形容詞」とし, §95では「所有代名詞」というのは、
どう違うか。

[著者: 「所有形容詞」が正しい]

§90 「所有形容詞」と, §133動詞「持っている」とは、同じような説明があるが、わかりにくい。

[著者: 所有されるものが動産か不動産か, 所有者と所有物との関係が一時的か永久的か, など
により, 所有形容詞+sara (səra), あるいは, to have 構文が用いられる。英語 “He has blue eyes.”
では, be 動詞による構文は不可。一方,

There are five windows in this room. = This room has five windows.

Tə pinsil larê? = Stā sara pinsil sta? 「君は鉛筆を持っているか」(目的物が portable なもの) 詳しく
は別に論じなければならない。所有文が, be 動詞構文と have 動詞構文とあり, 両者がいつも用い

られうるとはいえない]

§177 「法的小辞 modal particle/bə/」，補説319頁「叙法の小辞：bə, di」

法的＝叙法の＝modal＝mood の

H.Penzl, *A Grammar of Pashlo* (参考書目11)。

modal particle/be(ba)/, pp.42, 113-136. aspectual prefix/we/, p.136

perfective…………… p.118

mood : indicative, imperative and optative. (p.94)

aspect : imperfective and perfective. (p.113)

これらの用語の意味については，§320 「法 (mood)」 「相 (aspect)」 参照。